

に一般に古墳が造られなくなった七世紀中ごろから大阪府や奈良県下で使用されたものである。当然、築造した人々は大王一族や有力な豪族であったものと思われる。九州に唯一、存在するこの古墳の被葬者には、天武天皇に因わって『日本書紀』に登場する大分君恵尺・稚見の二人が想定されていて、七世紀後半に考えられている。

七世紀中葉以降も椎田町後ヶ谷古墳群や行橋市渡築紫遺跡などではまだ小古墳が造られていた。首長クラスの古墳築造は定かでないが、行橋市願光寺裏山古墳が七世紀中ごろと考えられている。この古墳は発掘がなされていないために詳細は不明であるが、石室の実測図が公開されている。それによれば、長さ二・二^{メートル}、幅二・六^{メートル}のやや横長の玄室をもち、羨道は前端部で幅三・六^{メートル}と大きく開く。また、天井部は玄室・羨道の区別がなく、水平に架構される点の特徴とする。玄室はほぼ四壁とも一枚石、羨道部も一枚石ないしは小振りの石材を併用する二段で構成されている。この石室形態に最も近いものは大平村穴ヶ葉山一号墳である。穴ヶ葉山一号墳も玄室は各一枚石で構成され、羨道部の天井石が玄室に張り出して、空間的にはほぼ正方形に近い。異なる点は天井石の高さ、羨道部が直線的となるか、幅広となるかである。これらの点から見れば、願光寺裏山古墳は穴ヶ葉山一号墳に後出することが首肯され、七世紀中葉に比定しても大過ない。京築最後の首長墳である。

第四節 勝山町の古墳時代

一 概観

勝山町に文化財専門職員が配置されたのは平成四年のこと、それ以前の文化財保護活動は中学教員であった定村貢二・川本義継らの貢献が非常に大きかった。現在も重要な基本資料である遺跡分布図は、主として彼らの作成したデータをもとにしたものである。また、定村・川本らの献身的な努力でいくつかの遺跡が破壊を免れ、失われた遺跡の記録が作成された。

さて、町内の古墳時代の遺跡分布を図2-121に示したが、ここには、現在では失われた、あるいは確認できないものもあわせて図示している。

古墳は、町域の南北・西を限る山塊から派生した丘陵上にはほぼ満遍なく分布するが、国道二〇一号線の南に広がる稗田地区の丘陵上はほぼ空白地帯となる。ここはバイラン土（真砂土）を地盤とし、石材の入手が困難なためであろう。周囲の山塊には花崗岩や変成岩が多く露出している。

首長墓の系列は、前方後円墳の寺田川古墳（二〇^{メートル}）を嚆矢とし、扇八幡古墳（五八^{メートル}）・箕田丸山古墳（四〇^{メートル}）・庄屋塚古墳（八一^{メートル}以上）、その後に行橋市長木の八雷神社古墳（七三

（竪）を位置付け、橋塚（方墳）・綾塚古墳（円墳）という流れが想定されるが、なお資料不足であり、今後に期待する。

首長墓を除く主要な古墳として三室からなる横穴式石室をもつ勝山古墳群（後述）、平尾の妙見古墳が注目される。五世紀代以前の妙見古墳は直径三〇メートルの大型円墳で、周溝を備えていたというが、残念ながら、ゴルフ場用地となって未調査のまま破壊されたようである。いわゆる巨石墳、首長墓に準じる古墳はやはり橋塚などに比較的近い位置に立地し、後期の町内の有力集団は黒田地区を拠点としたようである。

前期に属する古墳は南部、久保地区の野添遺跡が、中期古墳もそれに近い上久保地区で発掘調査された例があるだけだが、分布図には箱式石棺などと記された遺跡がいくつかあって、当然小平野・河川流域ごとに更なる広がりをもっているものと思われる。勝山神社のある丘陵には低墳丘の古墳群があり、それらも四〜五世紀代に属するものと思われる。

五世紀後半の古墳は箕田中原古墳群が早くから知られている。その報告にある、同じ丘陵の東側に位置する北野一号墳も箱式石棺を主体部とするとされることから五世紀代の古墳と思われるが、詳細は不明である。

後期の群集墳としては勝山池西古墳群（四〇基）・池田道東古墳群（五〇基）・中尾池南古墳群（二〇基）などが大規模なものである。これらはいずれも現状把握であり、詳細な調査を行

えば更に古墳数が増えるものと思われる。横穴墓は平尾・宮原・岩熊地区で知られているが実態はまだ不明である。

古墳時代 古墳のように外観によって存在がわかる遺構との**集落** 違い、地表下に埋もれた集落については採集さ

れた土器などの遺物によりその存在を推定するしかなかった。しかし、近年の発掘調査の増加により竪穴式住居等といった具体的集落の存在を示す遺構が確認され、集落に関する情報が増えてきている。発掘調査の原因のほとんどがほ場整備に伴うものであるため地域的・地形的に分布に偏りが生じてしまっているが、現在まで確認できている集落遺跡についてこれから概観していく。ただし、出土遺物の整理が完了していないため調査段階で古墳時代の住居であると認識したものを対象としている。つまり、当然存在したであろう平地式住居や掘立柱建物などの古墳時代に属する確証が持てない遺構については除外している。したがって、今後新たに古墳時代に含めることとなる遺構があるかもしれない。また、時代の特定ができなくとも典型的な二間×二間の総柱建物も合わせて対象としている。

勝山町における古墳時代の集落は久保・諫山・黒田のほ場整備に対応して大きく三つの範囲で確認できた。長峡川の支流である宇田川の南岸にあたる上久保集落の西側、長峡川流域の岩熊周辺の段丘状地形、黒田の微高地及び観音山の裾部分である。いずれの場所も近くに小河川が流れており、水利に恵まれ

た地点を選地しているようである。ただし、稲作という観点から見ると、水田適地に近いというには抵抗がある。当時の水田経営について具体的にはわかっていないが、例えば久保地区の集落では南北の谷は狭く、離れた初代川近くまで行かねば水田適地はない。また、黒田では微高地の両側の低地、あるいは山裾に入り込む谷は確かに水に不自由しないかもしれないが平坦地の幅が狭い。唯一諫山において検出した集落のみは広い平坦地をもつが、住居を検出した場所自体が長峡川の氾濫によって堆積してできた場所であり、安定して集落を営むには危険であろう。むしろ、稲作を主眼に置かず何らかの他の目的を持って集落を選地している可能性があるかもしれない。以下では発掘調査によって古墳時代住居が検出された遺跡をもとに集落について紹介する。いずれの遺跡においても六世紀後半代に属する遺構を検出しているが、これに前後する時期のものほとんど見つかっておらず長期間の集落とはいえない。それぞれの遺跡の存在によって推定される集落についても全容を窺知るには断片的すぎるが、古墳時代後期に各所で築造される群集墳周辺に集落を営んでいるように見える。今後の資料の増加と発掘調査資料の検討によって具体的な関係が示されることを期待したい。

なお、現在まで窯跡といった生産遺跡は町内では発見されていない。箕田丸山古墳・扇八幡古墳や庄屋塚古墳では大量の埴

輪が樹立されており、それを焼いた窯跡が近辺に存在するはずである。これも今後に期待しよう。

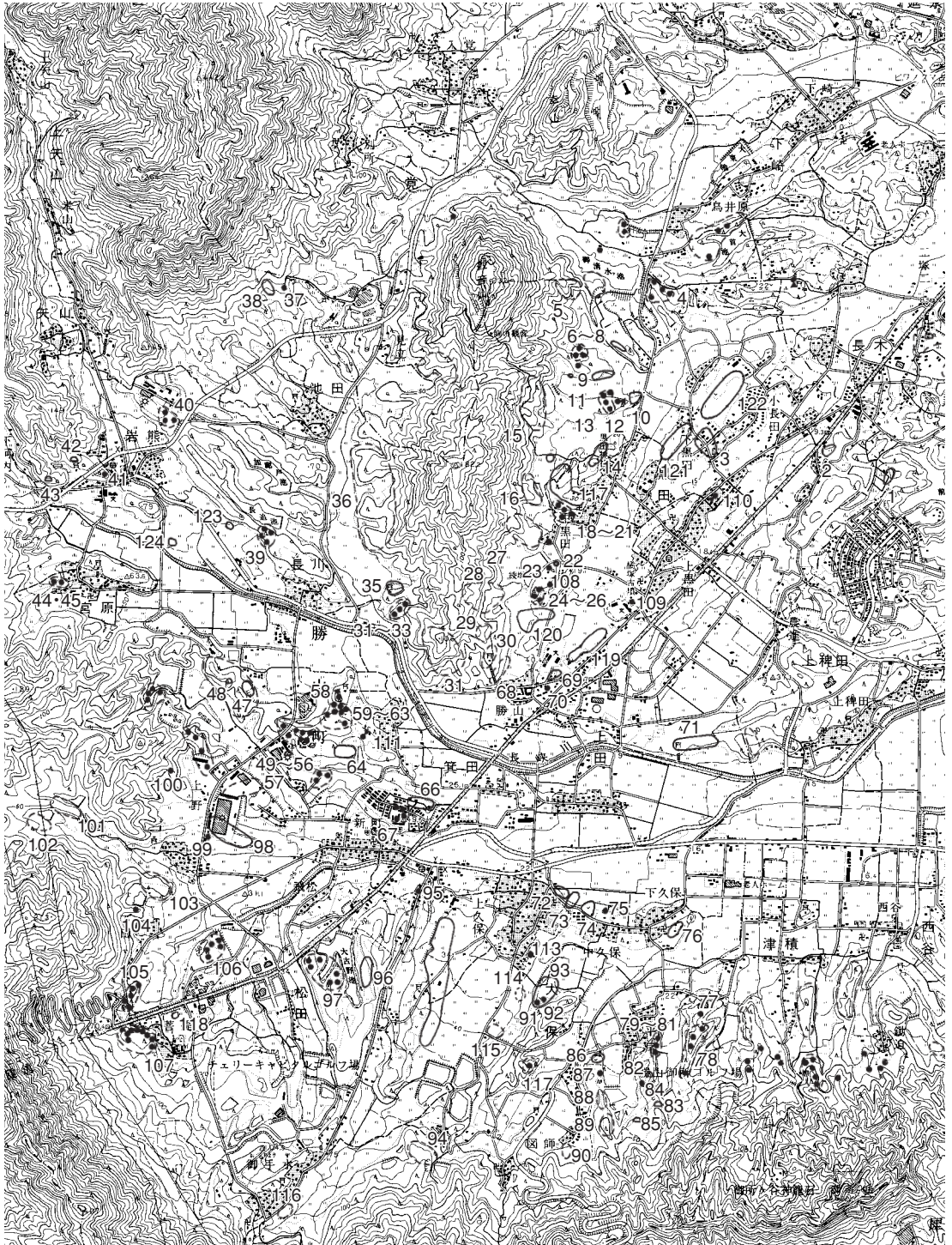


図2-121 勝山町古墳時代遺跡分布図

第4章 古墳時代

表2-13 勝山町古墳時代遺跡地名

番号	遺跡名	種別	所在地	遺跡の概要	備考
1	安藤池東遺跡	墓地	大字黒田	丘陵上、箱式石棺、甕棺群	消滅
2	安藤池西遺跡	散布地	大字黒田	丘陵裾部の低地、集落跡か	
3	原遺跡	散布地	大字黒田	低台地、集落跡?	一部消滅
4	北ヶ迫池北古墳群	円墳	大字黒田	丘陵の先端部、3基現存、横穴式石室	5基消滅
5	御清水池南古墳群	円墳	大字黒田	丘陵上、12基現存、小円墳群、横穴式石室	9基消滅
6	三ツ塚1号墳	円墳	大字黒田	舌状丘陵尾根線、小円墳	
7	三ツ塚2号墳	円墳	大字黒田	舌状丘陵尾根線、小円墳	
8	三ツ塚3号墳	円墳	大字黒田	舌状丘陵尾根線、小円墳	
9	三ツ塚南古墳	円墳	大字黒田	舌状丘陵頂部、帆立貝式前方後円墳?、横穴式石室?	
10	寺田川遺跡	墓地	大字黒田	丘陵先端部、箱式石棺	一部消滅
11	寺田川1号墳	円墳	大字黒田	丘陵先端部付近	消滅
12	寺田川2号墳	前方後円墳	大字黒田	丘陵先端部付近、墳丘完存、横穴式石室	
13	寺田川3・4号墳	円墳	大字黒田	丘陵先端部付近、墳丘完存、横穴式石室	
14	梅林遺跡	墓地	大字黒田	低丘陵上、箱式石棺群	一部消滅
15	五位ノ木池西古墳群	円墳	大字黒田	観音山麓、30基以上の小円墳群、横穴式石室	
16	新池西南古墳群	円墳	大字黒田	低丘陵、4基以上存在、横穴式石室	1基消滅
17	永敬寺裏遺跡		大字黒田	丘陵先端部付近平坦部、箱式石棺・甕棺群	
18	永敬寺裏1号墳	円墳	大字黒田	丘陵先端部付近、墳丘完存、径約30m、横穴式石室	
19	永敬寺裏2号墳	円墳	大字黒田	丘陵先端部付近、墳丘完存、径約30m、横穴式石室	
20	永敬寺裏3号墳	円墳	大字黒田	丘陵先端部付近、墳丘完存、径約30m、横穴式石室	
21	永敬寺裏4号墳	円墳	大字黒田	丘陵先端部付近、墳丘完存、径約30m、横穴式石室	
22	二又池東遺跡	墓地	大字黒田	丘陵頂部、箱式石棺、刀・鎌・鉈・鉞出土	一部消滅
23	二又池東古墳	円墳	大字黒田	丘陵頂部、墳丘一部削平、横穴式石室	
24	二又池南1号墳	円墳	大字黒田	丘陵先端、墳丘完存、横穴式石室	
25	二又池南2号墳	円墳	大字黒田	丘陵先端、墳丘完存、横穴式石室	
26	二又池南3号墳	円墳	大字黒田	丘陵先端、墳丘完存、横穴式石室	
27	浄古庵古墳群	円墳	大字黒田	山麓から延びる丘陵、11基以上、横穴式石室	
28	小堤池北古墳群	円墳	大字黒田	山麓斜面、11基の小円墳群、全て横穴式石室	
29	小堤池南古墳群	円墳	大字黒田	丘陵稜線、7基の円墳群、全て横穴式石室	
30	勝山神社古墳群	円墳	大字黒田	丘陵稜線、4基の円墳群、全て横穴式石室	
31	勝山池西古墳群	円墳	大字黒田	標高50~10mの斜面に約40基群存、小円墳群	
32	清地神社南1号墳	円墳	大字長川	丘陵頂部、横穴式石室、消滅	消滅
33	清地神社南2号墳	円墳	大字長川	丘陵斜面、墳丘完存、横穴式石室	消滅
34	清地神社南3号墳	円墳	大字長川	丘陵斜面、墳丘完存、横穴式石室	
35	清地神社遺跡	墓地	大字長川	低丘陵、箱式石棺	消滅
36	池田道東古墳群	円墳	大字長川	三つの舌状丘陵に約50基の円墳が群集、全て横穴式石室	
37	小松池西古墳	円墳	大字池田	山麓、墳丘一部削平、横穴式石室(単室)	
38	小松池西遺跡	散布地	大字池田	山麓の扇状地	
39	長迫池南古墳群	円墳	大字岩熊	丘陵上、円墳6基、墳丘完存	
40	岩熊古墳群	円墳	大字岩熊	丘陵上、円墳3基	
41	旧小学校地古墳	円墳	大字岩熊	丘陵先端	消滅
42	若宮八幡横穴群	横穴	大字岩熊	丘陵裾部、横穴群	
43	宮ヶ谷池南横穴群	横穴	大字岩熊	丘陵先端裾部、横穴群	一部消滅
44	宮原1号墳	円墳	大字宮原	丘陵先端、墳丘完存、横穴式石室	
45	宮原2号墳	円墳	大字宮原	丘陵先端、墳丘完存、横穴式石室	
47	キベガ迫遺跡	墓地	大字箕田	丘陵上、土壙墓、甕棺墓、木棺墓確認	
48	キベガ迫横穴	横穴	大字箕田	丘陵斜面、1基を確認	
49	中原1号墳	円墳	大字箕田	丘陵上、墳丘完存、竪穴系横口式石室	
50	中原2号墳	円墳	大字箕田	丘陵上、墳丘完存、竪穴系横口式石室	
51	中原3号墳	円墳	大字箕田	丘陵上	消滅
52	中原4号墳	円墳	大字箕田	丘陵上	消滅
53	中原5号墳	円墳	大字箕田	丘陵上	消滅
54	中原6号墳	円墳	大字箕田	丘陵上	消滅
55	中原7号墳	円墳	大字箕田	丘陵上	消滅
56	中原8号墳	円墳	大字箕田	丘陵上	消滅
57	中原横穴	横穴	大字箕田	丘陵斜面、2基確認	消滅
58	扇八幡古墳(県史跡)	前方後円墳	大字箕田	低丘陵稜線上、全長約58.4mの前方後円墳、周濠・周堤を含め全長約82.5m、後期、主体部は不詳	
59	扇八幡南古墳群	円墳	大字箕田	丘陵上、5基、横穴式石室	
60	北野1号墳	円墳	大字箕田	丘陵上、小円墳、箱式石棺	
61	北野2号墳	円墳	大字箕田	丘陵上、小円墳、箱式石棺	
62	北野3号墳	円墳	大字箕田	丘陵上、小円墳、箱式石棺(?)	
63	北野4号墳	円墳	大字箕田	丘陵上、小円墳、箱式石棺(?)	
64	箕田大池遺跡	散布地	大字箕田	低丘陵上	

番号	遺跡名	種別	所在地	遺跡の概要	備考
65	亀田道古墳群	円墳	大字箕田	丘陵上	
66	三島山遺跡	散布地	大字箕田	低台地、墓地、集落跡? 鏡片	大半消滅
67	三島山古墳群	円墳	大字箕田	丘陵上、円墳2基、横穴式石室	
68	勝山古墳群	円墳	大字黒田	山麓斜面、円墳3基、横穴式石室	
69	勝山遺跡	散布地	大字黒田	低台地、集落跡?	
70	一の塚古墳	円墳	大字黒田	低台地、墳丘削平、巨石利用の横穴式石室、封土中より土製鏡・土製勾玉出土	
71	上田遺跡	墓地	大字上田	河岸段丘、小墳丘、箱式石棺、伝鏡	
72	大藪遺跡	散布地	大字大久保	低台地、集落跡?	
73	大藪東遺跡	墓地	大字大久保	低台地、箱式石棺	一部消滅
74	中久保遺跡	散布地	大字大久保	低台地	
75	大原八幡古墳	円墳	大字大久保	低台地、墳丘完存、横穴式石室	
76	曼陀羅寺東遺跡	散布地	大字大久保	低台地、集落跡?	
77	妙見古墳	円墳	大字大久保	丘陵先端部、径35m、周濠、竪穴式石室か	消滅
78	妙見南古墳群	円墳	大字大久保	丘陵稜線、3基の小円墳	消滅
79	石ヶ坪池北西1号墳	円墳	大字大久保	丘陵稜線、墳丘の一部削平	
80	石ヶ坪池北西2号墳	円墳	大字大久保	丘陵稜線、墳丘完存	
81	石ヶ坪池北西3号墳	円墳	大字大久保	丘陵稜線、墳丘完存	4～6号墳消滅
82	石ヶ坪池西横穴群	横穴	大字大久保	丘陵裾部、長い墓道、羨門部に組石を持つ	半数消滅
83	石ヶ坪池南横穴群	横穴	大字大久保	丘陵裾部	消滅
84	石ヶ坪池西古墳	円墳	大字大久保	丘陵上、墳丘流失、横穴式石室	
85	雁俣池南横穴群	横穴	大字大久保	丘陵斜面	
86	平尾西遺跡	墓地	大字大久保	丘陵先端部、箱式石棺	消滅
87	平尾西古墳	円墳	大字大久保	丘陵稜線、半壊、横穴式石室	
88	雁俣池西古墳群	円墳	大字大久保	丘陵稜線、4基の円墳、横穴式石室	
89	函師東古墳群	円墳	大字大久保	丘陵上、3基の円墳群	消滅
90	函師西古墳群	円墳	大字大久保	山麓裾、円墳8基	
91	上久保1号墳	円墳	大字大久保	低台地上、墳丘の一部削平	
92	上久保2号墳	円墳	大字大久保	低台地上、墳丘の一部削平	
93	上久保南遺跡	散布地	大字大久保	低台地上、箱式石棺、土壙墓	一部消滅
94	函師棚田古墳群	円墳	大字大久保	丘陵上、10基の円墳群	
95	御手水道古墳	円墳	大字大久保	丘陵先端部	消滅
96	大古野東遺跡	墓地	大字大久保	丘陵上、箱式石棺群	一部消滅
97	大古野西古墳群	円墳	大字大久保	丘陵上、6基の円墳群	
98	上野遺跡	散布地	大字松田	丘陵上、集落跡?	
99	上野東古墳	円墳	大字松田	丘陵上、墳丘完存、横穴式石室	
100	上野北古墳	円墳	大字松田	丘陵上、墳頂陥没	
101	中尾池南古墳群	円墳	大字松田	丘陵上、20基の円墳群	一部消滅
102	トウテ池南古墳群	円墳	大字松田	山麓の台地上、5基の円墳現存	一部消滅
103	堂ヶ迫北古墳群	円墳	大字松田	丘陵上、10基の円墳群、横穴式石室	消滅
104	下田神社古墳	円墳	大字松田	丘陵先端部、墳丘完存、横穴式石室	
105	下田南古墳群	円墳	大字松田	山麓、15基の円墳群	
106	姥山古墳群	円墳	大字松田	丘陵上、5基の円墳群、横穴式石室	消滅
107	善提古墳群	円墳	大字松田	山麓斜面、約30基の円墳群、横穴式石室	
108	綾塚古墳(国史跡)	円墳	大字黒田	丘陵先端、直径41m、高さ8mの大円墳、周濠有り、現在長21mの複室横穴式石室に家型石棺安置	
109	橘塚古墳(国史跡)	方墳	大字黒田	微高地上、全長16mの巨石を用いた複室構造の方墳、辺長約40m	
110	庄屋塚古墳	前方後円墳	大字黒田	墳丘全長81m以上、前方部と後円部に横穴式石室	
111	箕田丸山古墳	前方後円墳	大字黒田	墳丘全長40m、前方部と後円部に横穴式石室、前方部石室から副葬品多数出土	
112	久保地区遺跡群(五反畑・四反畑遺跡他)	集落	大字大久保	丘陵上平坦部、竪穴式住居93軒・掘立柱建物41棟・土坑100基以上	消滅
113	大久保今地遺跡	集落	大字大久保	丘陵上竪穴式住居4軒、掘立柱建物など	
114	上久保古墳群	円墳	大字大久保	丘陵先端部、円墳2基、墳丘径12～13m、横穴式石室	
115	大久保掘生遺跡	古墳	大字大久保	丘陵上平坦部、円墳14基、竪穴式石室・石棺を主体部とする5世紀代	
116	御手水原古墳群	古墳	大字松田	丘陵南斜面、古墳12基、横穴式石室	
117	野添遺跡	古墳	大字大久保	丘陵尾根線上、古墳4基・箱式石棺2・石蓋土壙墓1、木棺・箱式石棺を主体とする前期古墳	一部消滅
118	黒田地区遺跡群(久保田・蔵本・伊能遺跡他)	集落跡・古墳	大字黒田	丘陵裾部から谷部、竪穴式住居、掘立柱建物、後期古墳2基など	消滅
119	善提1遺跡	集落・その他	大字松田	丘陵先端部で古墳時代後期の竪穴式住居2軒など、谷部で遺物包含層	消滅
120	黒田地区遺跡群(神田・平田・平原遺跡他)	集落	大字黒田	低丘陵上、古墳後期集落、竪穴式住居48軒、掘立柱建物48軒など	消滅
121	中黒田遺跡	集落	大字黒田	低丘陵上	
122	黒田地区遺跡群(八田ヶ坪・持田遺跡他)	集落	大字黒田	低丘陵上、古墳後期集落、方形竪穴式住居42軒、掘立柱建物7棟など	消滅
123	黒田下原出口遺跡	集落	大字黒田	低丘陵上、竪穴式住居2軒など	
124	黒田エノヲ遺跡	集落	大字黒田	低丘陵上、竪穴式住居23軒、掘立柱建物など	
125	岩熊栗屋遺跡	集落	大字岩熊	谷部、竪穴式住居2軒、掘立柱建物4棟など	消滅
126	岩熊古江遺跡	集落	大字岩熊	丘陵裾、竪穴式住居8軒、掘立柱建物4棟	消滅